

球根肥大に関しては、LA、OT はとても良く、LA は 18-20、OT は 22-24 なども多く収穫されるほどでした。一方、夏の暑さや乾燥はアジアティック・オリエンタルにはやや厳しかったのか、既に収穫が済んでいるアジアティック（無花粉やポット八重など特徴的な品種が多い）は、肥大不足や二芽が多く、欠品が相次ぎました。

11 月中旬より OT やオリエンタルの比較的生育（枯れ方）が早い 2 年栽培の収穫がスタートしました。肥大は概ね良く、春の遅霜の被害もなかったため、2 年栽培圃場の生育は良い結果となっています。（来年用の種球も良さそうです?）

その後（主に 12 月）、日本に影響が大きいオリエンタル品種の収穫が行われておりますが、品種・サイズにより大きな欠品が出てきています。加えて、12 月 12 日～18 日まで約 1 週間 寒波が入り、圃場の地表面凍結や溶けた水が乾くまで収穫が再開できない日があったため、年末まで収穫作業を行っている生産者もいます。

品種ごとに結果が確定し、調整が必要となりました場合は、関係のお客様に速やかにご報告させていただき、代替の確保等をご案内させていただいております。1 月上中旬の報告が多くなると思われませんが、ご協力よろしくお願い致します。

2. オランダ産新球の入荷は 3 月！?

“3 月 17 日付情勢報告の②オランダ産新球の入荷状況について”

“9 月 30 日付情勢報告の②球根流通事情と相場のポイント”、でもご紹介の通り、

近年、オランダの収穫の長期化や船便の本数・スケジュールなどの影響で、新球入荷は年々遅れてきました。今年は収穫状況に加えて、オランダから日本への船の航海日数が、昨年同時期に比べて 1 週間ほど伸びています。船の出発の 1 週間近く前にロッテルダム港にコンテナを届けなければいけませんし、日本に到着してからも所定の検査や手続きに日数を要しますから、トータルで約 2 か月！もかかります。10 年以上前の話ですが、“約 1 か月”と言っていた昔のイメージとは全く違い、例えば 12 月に掘った球根が、選別、パッキング、輸出用手続き等に数週間かかり、年末年始の便に載せられたとしても、2 月下旬以降の入荷となってしまいます。

春、相場が安定した時期の切花出荷や、ハウス内の生育期間の短縮（植えてからすぐに発芽）を考えますと、1、2 月の定植は南半球産を前提とした作付計画が適切ですが、22 年南半球産は、事前のアンケートや 12 月前半までの植物防疫統計でも約 1858 万球の輸入となっており、前年比 91.3%と大幅に減少しています。

3. 2022 年南半球産の試験が見ごろを迎えつつあります

チリ産 LA が 12 月中旬より開花し現在満開です。オリエンタルもサロニキ NZ が開花しましたので、多くの品種は（八重も 20 品種以上!）1 月が見ごろとなります。南国高知の冬は天気が良く日も強いので、ハウスの中も暖かくして皆様のご来場をお待ち申し上げます。



2022 年も本当にお世話になりました。来年もどうぞよろしくお願い致します！

以上